

2023年7月3日

学校法人三幸学園
横浜リゾート&スポーツ専門学校
校長 坂本 紀典 殿

学校関係者評価委員会
委員長 片野 拓真

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 片野 拓真 (スポーツクラブネサンス蒔田 24 支配人)
- ② 本屋敷 裕太 (女性専門ボディメイクジム BLOOM 代表)
- ③ 武田 祥子 (飛鳥未来高等学校 横浜キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年7月3日 (会場 横浜リゾート&スポーツ専門学校 303 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 横浜リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 片野 拓真

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■新入生保護者への連絡を実施

■新入生面談の実施

■生徒状況の早期報告(担任会議にて毎週報告し、講師にも共有をする)

■各学科に学科長を配置し、担任は気になる生徒状況を学科長に報告し、学科長同席のもと三者面談を行った。また、学科長間でも生徒状況共有を密に行った。

■産学連携の強化

新型コロナウイルス感染予防をした上で、以下の取り組みをすることができた。

⇒DeNA様:スポーツインストラクター科スポーツビジネスコースに対しての特別授業、公式試合のボディケアブース出展

⇒ルネサンス様:1年生を対象に数年ぶりにフィットネスクラブ体験会を実施し、入学当初に職業イメージをつけた。

⇒横浜FC様:インターンシップ実習の受け入れ

⇒NEC レッドロケッツ様:ホームゲームの設営手伝いをボランティアとして行った。

■学習面や人間関係に不安を持つ生徒に対して、担任以外の教員からアプローチをかけていく対策として「リゾスポアドバンス」の実施。「勉強」「人間関係」「進路」に関する相談ができる機会を設定することができた。

■スクールカウンセラー制度の利用(2022年度カウンセリング利用人数:3名)

■2ヶ月に1回教務強化ポイントを設定し、「挨拶」「報連相」「清掃」など生徒に意識させたい項目を提示した。

※複数教員で一つのクラスを見る、生徒面談には原則複数教員で入ることを徹底した。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- 理念や人材育成像について、生徒及び教職員へこちらから一方的に伝えるばかりであるため、浸透には至っていないと感じる。
- 「各学科に対応する業界のニーズ」については、まず担任メンバーから知見を深める必要がある。
- 全体会議等で伝えてはいるが、理念を基にした指導には至っていない部分がある。全員に引き続き浸透させることが課題である。
- 業界ニーズを把握するため、訪問期間の設定はしたが、各自が訪問した内容の共有に関しては課題がある。

② 今後の改善方策

- 全体会議等にてなぜそのような設定がなされているのか、その目標と現状のギャップ・改善策について等、ディスカッション等をする機会を持つ。
- 業界の動向を収集する機会が少ないため、実習や就職に関する企業訪問を増やす。
⇒企業との繋がり強化期間を設定し、その後メンバー間の情報共有を強化する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

■コンプライアンス体制整備のため、年2回全体会議内でハラスメント研修を実施している。

■問題となりそうな案件がある場合は、該当者と責任者にて面談を実施し、共通認識を図り、抑止に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- 講師陣の適性配置
- 生徒の職業観の醸成
- 学生が希望する就職先を把握した上での適切な求人紹介

② 今後の改善方策

- 新規講師を派遣いただく際には、事前に経歴の確認・場合によっては事前の面談を実施し、適切な人材であるかどうかの見極めが必要。また、採用後も状況を把握し会社・学校双方からのフォローアップをする。
- 入学初期～前期末にかけて、生徒が複数の職種を体験できるよう職業体験会を設定する。
- 講師陣にこれまでのキャリア形成の話をしてもらう機会を設定し、生徒が”キャリアの積み方”を知る機会をつくる。

③ 特記事項

- あきらめない教育の理解を深めるために、毎回の全体会議にて全教職員に繰り返し伝えている。
- 授業オリエンテーションの強化⇒目的、年間授業計画、評価方法を初回授業で必須で説明した。

- 授業アンケートで評価の低い教員や生徒からのコメントが気になる教員は責任者が面談を実施した。
- 授業アンケート項目の中で、特に部門として力を入れていきたいものを提示し、統一認識を図った。
- 授業力向上研修にて授業力向上のための意見を集約した。
- 地域の3・4・5歳児向けの体操教室「リゾスポ大陸」を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

可徳：現状課題は、高校生がオープンキャンパスに来てくれた際の学校の雰囲気と、入学後の勉強面にギャップがあり、実技よりも座学授業が占める割合が大きく、ギャップが生まれやすい業界でもある。また、就職面でのサポートにおいて、就職活動のやり方は伝えられるが、それぞれの業界・職業についての中身を伝えることが不足している状況がある。生徒が業界を理解したうえで就職先を選び、就職後も長く活躍していくためにも在学中に必要な指導内容を検討する必要がある。

本屋敷委員：学校を選ぶきっかけとなったのは、進路ガイダンスで高校に来てくれた先生が非常に明るく印象的だったこと。またその後オープンキャンパスで、憧れの先輩が出来たことで、職業ではなく「人」が入学の決め手となった。入学後は、三幸フェスティバルの団長やサッカー部のキャプテン、オープンキャンパススタッフなどを積極的に取り組み、学校生活を楽しむことができた。

また、入学後に先生の経歴を聞く中で、Jリーグや、プロ野球選手に関わるトレーナーの先生がいることを知り、職業選択の幅も広がった。自身はプロサッカー選手にはなれなかったが、プロを育成して活躍する選手を見て子供たちが喜んでほしいという想いから、トレーナーを志すきっかけができた。

担任のすすめもあり、パーソナルトレーニングジム(トータルワークアウト)に就職したが、想像していた世界とは異なり、2か月で退社。退社することになった背景としては、芸人へのパーソナル指導を行えると思って入社したが、想像以上に事務作業も多く、電話対応をすることさえもイメージにはなかったため、大きくギャップを感じたこと。この経験から、学校では表面的な部分だけではなく、生徒には想像のつかないような裏方の仕事(事務作業など)も理解させ、事実を伝えていくことが、就職後の早期退職防止にもつながるのではないかと併せて、アスリートのフィジカルコーチは枠が少ないため、現実的な話もしていく必要がある。

飯塚：今年は就職決起大会にて、キャリア形成の見本になる講師の先生方に講話をいただく機会を設ける予定。本屋敷委員より提案があった、仕事のリアルを伝えていくというお話と結びつけることができると想定している。

片野委員長：本校の教育方針やカリキュラムをしっかり学修できれば、いい人材の育成ができると感じた。「何をやりたいか」がもう少し見えてくるとアドバイスも広がる。どこでどういうトレーナーになり活動していきたいのか。民間企業であると当然、デスクワークの割合も増えてくるため、何をやりたいのかを膨らませてあげられるような仕掛けを作っていく必要があるのではないかと。

武田委員：高校分野の生徒において、ある程度の職業の理解はできていると思ったが、意外と仕事の理解ができていない状況であることが分かった。姉妹校の中でも、リゾスポだけが戦う相手が大学生という状況があるのではないかと。リゾスポの専門学校を出ているからこそアピールできることや魅力が伝わるようにしていく必要があると感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

- 2022年度は退学率が非常に高くなってしまった。2年生の目標喪失による退学が例年に比べ大幅に増えたことが退学率向上の大きな要因となっている。
⇒1年次目標が不明確な生徒を特に手を打たず進級させてしてしまったことが退学率の向上に繋がった。
- 主要資格の合格率は年々高くなってきているが、全国RSと比較した時にはまだまだ伸びしろがある。
- 卒業生の状況把握:卒業生支援、および実習就職等の在校生への還元のための把握。

② 今後の改善方策

- 目標喪失させないために、普段の授業中心に職業の魅力づけをしていく必要がある。
- RS統一模試の活用(模試直し、教科担当との連携等)、1年次より資格取得に対する動機づけを強化する。また、資格担当者と資格対策授業担当者との連携を密に行っていく。
- 学びの初期教育を導入し、入学時に生徒の基礎学力を把握し、その後の学校生活で目標喪失に繋がらないよう教員陣がサポートする仕組みをつくる。
- 定期的な企業訪問・密な連絡による在籍卒業生の確認
- 同窓会組織をうまく活用できる仕組みづくり

③ 特記事項

- 年度初め、長期休暇前、長期休暇中に欠席が多い生徒に対して面談を実施
- 「講師紹介シート」を全講師に協力いただいて校内に掲示した(2022年度最新版)
⇒担当授業名、保持資格を記載
- 各種退学指数のアンケート結果を分析し、担任会議にて全体へ共有後、担任中心に退学指数が高い生徒に対してアプローチした。
- JATI認定トレーニング指導者の対策授業を例年よりも多く取り入れた。

【退学率】

2022年度	76/777名	9.8%
2021年度	40/831名	4.8%
2020年度	47/797名	5.9%

④ 学校関係者評価委員会コメント

本屋敷委員：当時のクラスメイトの中で現在もスポーツ業界に残っているのは10名程度で、ほかのクラスと比べても比較的多いと感じている。

在学中に目標喪失してしまった生徒は、単純に業界のことが分からなくなってしまったことや学校の授業が難しくついていけないといった理由が考えられる。また、入学時のコース選択を誤った。例えば、チーム指導を志していたが、インストラクターコースに入ってしまったなども生じていた。

在学中に、先生から仕事の話聞く機会も少なかったため、卒業したら先生のようになれると思い込んでいた部分もあった。先生がその職業のプロとなった過程(失敗談、成功事例)を知ること、就職後のギャップ解消にもつながっていくのではないかと感じる。

片野委員長：本校の退学者数増加とルネサンスにおける離職状況においては、同じような課題感がある。退学に至るケースとしては、入学時との環境の変化が要因であると思うが、コロナの影響もあって、コミュニケーションがうまくとりづらい人材が増えている状況があると感じる。そのような場合に、仕事が好き、学校が好きだけでなく、友達がいるから頑張れるというような違う切り口からも継続する要因を作っていく必要があるように感じる。

飯塚：昨年度退学者が多かったことをふまえて、今年度は比較的退学者の多い通信制高校出身者を集めて、マンツーマンで教員をつけて1時間程度で話をする機会を設けるなどの対応を行った。

武田委員：高校分野においてもミスマッチのない進路選びをするように指導していく必要があると感じた。入学時は自分にはできると思って入学を決めたが、入学後に壁にぶつかった際に頑張れる力が特に飛鳥未来高校の生徒は少ないので、続けることの大切さや卒業することの意味、人間関係や仲間の大切さを学べることを教員からも伝えていく必要があるように感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- スクールカウンセラー制度はあるが、場所が姉妹校となるため、学生が利用することに少しハードルが高いと感じている可能性がある。2022年度のスクールカウンセリング利用者は比較的少なかった(利用者:3名)
- 卒業生への支援体制が学校単体としては弱い。

② 今後の改善方策

- 学生にスクールカウンセラー制度があることをしっかりと周知し、担任からも利用した方が良いと思う生徒には積極的に案内をしていく。
- ホームルームや就職に関わる授業の中での案内を強化する。案内する際に参加意欲を向上できるような情報も付加する。
- 卒業生が活躍している企業に訪問することで卒業生の状況を知ることができ、その後の支援にも役立つ。

③ 特記事項

- 毎朝1コマ目の授業にて学生に健康観察表(体温、症状有無)を記入させ、教科担当教員が確認するというチェック機能を設けた(2023年度は実施なし)
- 就職サポートシステムとして複数名の教員による就職支援システムを構築している。
- コロナ禍に合わせたオンライン面接対策の実施
- オンラインによる会社説明会の実施
- 2月には就職決起大会にて各企業の人事担当者様に対面で会社説明会を実施いただいた。
- 2021年度に比べ、2022年度は校内説明会の開催数を増やした(2021年度:40回、2022年度:83回)

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- 防災、安全管理に対する体制整備

② 今後の改善方策

- 生徒への避難訓練指導の実施
- 備蓄の整備
- 就職先が少ない職種(競技現場、野球、サッカー、ビジネス等)の新規企業開拓を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

- スポーツトレーナー科アスレティックトレーナーコース(2年制課程)とアスレティックトレーナー科(3年制課程)のコース選択が早まるため、その周知を生徒、保護者へ適切に周知していく。
- 教務面でのギャップを極力生まないように、広報で正しい情報を適切に伝える。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- 更なる法令遵守の推進。
- 個人情報の取り扱いについては、今後も周知徹底していく必要がある。

② 今後の改善方策

- 教職員会議や掲示物を通じて、法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

- 平成26年度 自己評価結果より公開開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- 一般の方向けの公開講座が少ない。

② 今後の改善方策

- 地域貢献につながる公開講座を積極的に実施していく。

③ 特記事項

- ボランティア活動については積極的に取り組んでいる。スポーツイベント支援、スポーツチーム支援、幼児スポーツ支援等を中心に様々な活動を実施している。特にリゾスポ大陸では、月に2回ほど学校のスタジオに地域の子どもたちを呼び、スポーツインストラクター科こどもスポーツコースとスポーツ保育科の生徒たちが有志で参加し、幼児体育指導を行っている。実際に授業で学んだことをアウトプットできる場であり、地域貢献にも繋がっている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校の教育方針や人材育成像など思学校の思いを感じることができた。学校運営において波はあるが、その時々状況を把握し、相互が win-win になるような活動が今後できると良いと感じた。